

区分	評価指標	H26実績	H27実績	H28実績	前年度比	図書館運営全体	
図書館運営	基本的サービス					自己評価	外部評価
	資料購入費:決算数値(千円)	177,150	167,332	132,418	0.79	<p>・個人の貸出点数、登録者数、新規登録者数、入館者数すべてが減少傾向にある。一方、予約件数は増加しており、そのうちスマホからの予約申込割合が増加傾向にあることから、読みたい資料を事前に予約して来館する利用者が増え、来館して書架から選ぶ利用者が減っていると思われる。予約資料を借りに来館した利用者に対し、書架へ行きたくするような働きかけをする。また、来館者も減少傾向にあるため、新しい利用者を増やすよう引き続き取り組んでいく。</p> <p>※補足:入館者数 入館者数は、平成27年5月上旬から全館で記録できるようになった。平成27年度実績には、一部の図書館の4月分がカウントされていない。また、地区図書室では入室者数を把握できない。</p>	<p>・図書館の利用の仕方の変化をとらえていくことが重要である。スマホを組み合わせての利用に対応していただきたい。一方で、今回奥野直之氏の図書館活用術についての講演会が開催されたのはよかったと思う。 ・利便性を図るのは、時代的流れとしても図書館へ足を運ぶ、書棚から本を選ぶというのはアナログな事。アナログのよさ、快さを知らせることも大切。 ・公民館と同居の館などでは、協働のイベント等で新たな来館者が望めるのではないかと。(亀田図書館では、アスパーク祭りの来館者が多い。) ・資料購入費は前年水準を維持したい。ただでさえリクエストの多い書籍を複数購入する傾向がある。多様な蔵書をそろえるためにも予算は必要だ。 ・ネットでの利用がしやすくなった。もっと高齢者でも利用しやすくすることを検討。 ・ITの現代、それを利用しての傾向は、益々加速していくと思われる。しかし、専門性にたける職員と対面しての予約や貸し出しのあり方や魅力ある図書館運営に期待する。 ・予約数が増えるということは利用が増加した証し。いろんな角度から図書館に関心を寄せてもらおうことが大事だと思います。 ・館内のレイアウトを10年経過したので再考した方が良いのでは？ 図書館がアマゾン化している。読みたい本を予約し近くの図書館の窓口で受け取るだけで満足。SNSを利用しほんぼーとがメルマガ会員を募る。 ・来館者のどのような姿が目指す利用者の姿なのか。それは、図書館の活用の増加にどうつながるのか等、研究していくことが必要。地区図書室の利用の動向を細かく数値で評価する必要はないと思う。それは、基幹図書館の利用状況と同傾向を示すと見ればよい。</p>
	蔵書点数(点):図書・AV	1,858,741	1,903,315	1,912,358	1.00		
	個人の貸出点数(点):雑誌・AV含む	4,579,026	4,660,496	4,517,184	0.97		
	個人の登録者数(人)	153,527	149,051	147,184	0.99		
	(内新規登録者数)	19,181	17,549	16,848	0.96		
	入館者数(人) ※地区図書室除く	後期 新規	※参考値 2,694,048	2,628,828	—		

区分	評価指標	H26実績	H27実績	H28目標	H28実績	自己評価	H29目標	評価(次年度への展開)			
ネットワークを生かした「課題解決型図書館」	レファレンス件数(件) ※資料の所蔵調査を含む	69,592	83,157	72,800	94,580	3	94,500	自己評価	外部評価		
	個人予約件数(件)	695,963	735,883	740,000	755,581	3	760,000	<p>・全館でのレファレンス件数は前年度の数値を上回り、目標を達成することができた。 ・平成27年7月よりスマホ専用ページを開始したことから、PC用ホームページへのアクセスが減少したが、その傾向がさらに強まっていると思われる。(現在のホームページでは、スマホだけのアクセス数は把握できない)</p>	<p>・中央図書館のレファレンス件数は減少しているが、全館のレファレンス件数は前年を上回っているという。このことをどう評価すればよいのであろうか。 ・カウンターに顔の分かる人がいと尋ね易く、即対応してもらえている。地域の図書館には、特に望みます。 ・努力した感がある。 ・これからは生活に密着した機器への対応に努めてほしい。 ・ホームページをリニューアルし、PRしてほしい。ホームページのアクセス件数を増やす手立てを考えて。 ・市民一人ひとりのために、図書館が活用されるような取組がしっかりなされており、感動する。これからも創意工夫を働かせ、頑張してほしい。</p>		
	ホームページアクセス件数(件)	1,399,303	1,321,199	1,350,000	1,157,724	1	1,200,000				
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	107,839	111,933	120,000	115,446	1	120,000				
郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	37,718	39,105	40,000	38,515	1	40,000					
特色ある地域づくりに寄与する「分権型図書館」	職員の派遣人数(延人数) ※子ども読書推進以外の派遣	後期 新規	43	25	30	27	30	<p>・各区の特色を生かした地域資料の収集に努め、郷土・行政資料の蔵書冊数を伸ばすことができた。 ・公民館等との連携・協力事業を引き続き行い、前年度の実績を上回ることができた。</p>	<p>・より地域の前線で、地域資料、郷土資料の収集・保存・整理・提供が活発に行われていることは望ましいことである。 ・各区の文化、歴史を大切に。残すという事は各区の図書館の役割。年中行事、いいつたえ等独自の文化をとらえての企画など各館の活躍に期待する。 ・ボランティア、公民館、図書館の協働事業は、多様な入館者に繋がらないだろうか？公民館のイベントの関連本を面出ししている図書館が見られた。 ・こんなところかなと感じる。 ・収集もさらに努め、いかされる場の発掘やPRに努めてほしい。 ・公民館との連携をもっと深めてほしい。 ・新潟市が広域になり、おらが地域の思いが弱くなったのだと思う。その中で、市民の歴史への興味、関心を生かしながら、地区の歴史、地区の産業などへの思いを高めていく取り組みが必要である。そこでは、地域の人の力を生かし地区の発展をめざして、様々な機関、組織と連携していくことが大切である。</p>		
	公民館等との連携・協力事業数(件) ※子ども読書推進以外の事業	後期 新規	—	33	35	39	40				
	子どもの読書活動を推進する「学・社・民融合型図書館」									自己評価	外部評価
	児童書の貸出冊数(冊) (12歳以下子ども一人当たり)	12.1	13.1	12.4	13.1	3	13.2			<p>・事業への参加者数及び職場体験受入は、前年度を上回り、目標を達成することができた。 ・職員の派遣及び連携・協力事業については、目標を達成することができなかった。各関係機関へ働きかけを引き続き行う。</p>	<p>・児童一人あたりの数値を出すなどの工夫が必要ではないかと思う。 ・児童書の貸出冊数や、子ども・親子対象事業の参加者数が少しずつ伸びている点は、評価できると思います。 ・ブックスタート事業の一般市民認知度はまだ低いが、対象者には好評で、赤ちゃんタイムにも繋がりが、喜ばしい。 ・努力のあとが見られる。今後も期待する。 ・今後も大いに期待したい。 ・学校への団体貸出は、授業の展開に大変大きく寄与しています。 ・職員派遣が少ない事が残念です。小中学生が図書館で本を借りられるよう、校長会にお願いしてみたい。 ・なにしろ、地区の小中学校との遠慮のない連携体制が必要である。教員と図書館員の人的な交流、信頼関係をますます構築していく必要がある。学校職員に本当に読書の楽しさ、有効性について理解を深めてもらうことに尽きる。</p>
小・中・高等学校への団体貸出冊数(冊)	後期 新規	56,019	62,285	63,000	62,825	1	63,000				
子ども・親子対象事業の参加者数(延人数)	18,400	20,292	20,500	20,753	3	20,000					
職場体験受入人数(人)	267	182	185	200	3	200					
市民参画と協働を推進する「パートナーシップ型図書館」 ※ボランティア活動には、東プラ・荻川・金津・小須戸・西内野の各地区図書室を含む。	職員の派遣人数(延人数) ※子ども読書推進に関わる派遣	後期 変更	253	208	200	195	200	<p>・引き続き動向を見守りたい。 ・今後は高齢者、貧困家庭への働きかけも検討してほしい。図書館は人間としての生活を保ち、豊かにする場所であるから。NPO、ボランティア活動との連携で支援できる体制づくりを構築してほしい(将来的に)。 ・おはなしのじかん(赤ちゃんタイムは別)に限っては、参加者の低年齢化と参加人数の減少があるように思われる。 ・今後も努力を期待する。 ・生涯学習(社会教育)として、興味をもってボランティア活動育成へと努めてほしい。 ・ボランティア交流会を中央区だけでなく全ての区で行ってほしい。60～70代のやる気があるボランティアさんの参加を呼びかけてほしい。 ・読み聞かせのような専門的ボランティアだけでなく書架の整理など、何人かで楽しく活動できる場を提供し、交流の機会を作ることで、ボランティアも増えるのではないだろうか。こちらが面倒がらずにお願いすることが大切だと思う。</p>			
	公民館等との連携・協力事業数(件) ※子ども読書推進に関わる事業	後期 新規	—	8	10	6	10				
	図書館ボランティア活動者数(延人数)	6,419	6,462	6,500	5,828	1	6,500				
	ボランティア団体交流会参加者数(延人数)	63	63	60	60	2	70				
効率的・効果的な運営(職員)	利用者の意見を把握する機会の設定(回)	19 (全館協議会15回、黒崎3回、中央1回)	19 (全館協議会15回、黒崎3回、新津1回)	18	20 (協議会15回、正副協議会長会議1回、西川1回、黒崎3回)	3	18	<p>※補足:H28ボランティア団体交流参加者数 「中央・豊栄・白根の3団体交流会」に合計22名 「読み聞かせ等ボランティアグループ交流会(全市対象)」に38名</p>	<p>・専門的な研修への参加に加え、認知症の人への対応研修など職員全員が参加する内部研修を実施したため、目標値を大幅に上回った。</p>		
	共催・協働事業の実施件数(件)	後期 変更	—	170	175	189	190				
効率的・効果的な運営(職員)	研修参加職員数(延人数)	624	765	630	1,184	3	770	自己評価	外部評価		
								<p>3 大変評価する。86%</p> <p>2 ある程度評価する。14%</p> <p>1 評価できない。0%</p>	<p>・認知症の人の対応研修だけでなく、今後様々な利用者に対応するための研修が益々重要になっていくだろう。 ・日常の業務を離れての研修は、客観的に見直すよい機会でもあり、新風を呼び込むきっかけになると思う。 ・研修の効果が今後出てくることに期待したい。 ・今後も努力を期待する。 ・職員の研修意欲に感謝したい。 ・研修は重要だと思いますので、引き続き行ってほしい。 ・いろいろな第三者からの指導、要望を聞くということも運営のヒントになると思う。中央図書館まで来てというだけでなく、各館で行うこともあってよいと思う。</p>		

※「自己評価」欄の数値について ..... 3:目標値を上回って達成 2:目標どおり達成 1:目標値を下回った